

第二冊を印刷中

①

人類が始めて原子爆弾

の惨禍を蒙った広島に

近い竹原市に集った私たち諸分野の科学者は、一年前、

オ一回科学者京都会議（おこなった） 声明の意義と内容とを再確認し、

「キユーバ以後の世界情勢」、「アジアの中の日本」、

「科学者の社会的責任」に関する諸報告を中心として、

三日間にわたる討議を行いました。
（次回の京都府の討議）

の中で指摘された諸点を含めて、さらに深く検討する。

その一、核兵器の

(一) 昨年の科学者京都会議の声明の中で、私たちは大

量殺戮兵器による抑止政策の危険な性格を指摘し、こ

の政策への反対の意志を表明しましたが、その後、キ

ユーバの危機の日々に、
（核兵器の）

れた戦慄すべき体験を経ました。抑止政策は最近では

移動可能な核ミサイル基地
（核兵器の）

また潜水艦を主体とする核戦畧の形をと

つつあり、地球表面の全域にわたる基地網とありま

つて、世界情勢は益々緊迫の度を加えつつあります。このよ

うな状況のもとでは、世界各国の全ての民衆は、少数

c091-006-004

②
世界
の政策決定者
人質にされているといつてよいで
ありましょう。

の如き事態

(二) いっ再び、キューバ危機が世界のいずれかの地点
で発生しかねない、暗い情勢の中で、

私たちはともすれば 絶望感に襲われ勝ちでありま

す。しかしながら、 正失は運命ではなく、人

間によって作られるものであることを想起したいと思

います。このことは例え、今世紀の初頭と現在

という二つの時点、世界史の断面を比べてみれば

明らかになるであらう。今世紀の初頭、世界の社会改革

の運動も民族主義の動きも、また科学者、芸術家たち

の営みも互に全く孤立し、連帯感を欠いていて、この

事情が 戦争を可能にしてい

ました。しかるに私たちの立つ現在においては、国境を越

えた連帯感に結ばれた広大な大衆の平和運動が国際

政治に影響を与え得るまでに育ってきています。

(三) 前回の声明において、私たちは戦争放棄を明記し

た日本国憲法九条の 大きな意義を指摘しました。 平和を創造するための

も思えては

③

日本国憲法が

指針として、ますます大きな現実的意義をもつに到つ
ていることを^{重ねて}強調いたします。

(四) キューバ危機に際して、国際連合は偉大な貢献を
しましたが、私たちは国連の将来の役割に大きな期待
を抱くが故に、国連のあり方についてあえて二、三の
問題を提起したいと思います。

国連はその憲章の才五十一條と才五十二條によって自
衛権と^{地域的}集団安全保障の権利を認めておりますが、現実

には東西両陣営の敵対する軍事ブロックが、これに
準拠して設けられ、^{これらの条項はあたかも冷戦と}観を呈しています。
^{核兵器の抑威と公然と制度化した}また、再

来年は国連設立の二十周年に当り、^{すべし最もよい}憲章を再審議
できる機会があります。現在の国連憲章が核兵器出現

以前につくられたものであることを想起し、上記のよ
うな不合理な事態を排除する、とともに、^{核時}

代に有効に対処できるように^{迅速}国連の在り方を再検討が加えら
れるべき時期が到来考えます。さらにまた、中華人民共

和国の加盟を実現することが国連本来の在り方に沿う
ことを主張したいと思ひます。

④

(五)

アジアにおいては、米合衆国と中華人民共和国との間に敵対状態が十数年にわたって続いております。この状態の存在は、アジアにおける緊張の根源であり、世界平和の創造にとって著しい障害になってい

ます。日本が核非武装の原則を貫き、一切の核兵器の持ち込みを拒否することは、単に日本が戦争に巻き込まれる危険性を減殺するだけでなく、アジアにおける核戦略体制の恒久化を阻止するのに有効であり、日本の世界平和に対する大きな貢献となるのであります。

(六)

才一回科学者京都会議以後、軍縮と日本経済との関係をはじめ、いくつかの問題についての検討が進行しつつあることは、私たちも深く勇気づけるものであります。もともと科学者の社会的責任に対する意識は、主として、原子物理学の発展とともに成長して来たものであります。しかし、平和の創造という課題に対しては、イデオロギーや方法論の違いを越えて、人文・社会・自然全分野の科学者が協力して、その社会的責任を果たすことが、さし迫った必要事であると考えます。

アメリカ

⑤

さらに、永い文化交流の伝統を持つ中華人民共和国を
はじめ、アジア諸国の科学者の協力をうる可能性を検
討することも私たち日本の科学者にとって将来の重要
課題の一つであります。

(七) 今日、社会に対して巨大な影響力をもつものとな
った科学が悪用される場合を考えると、科学者として
責任の重大さを身にしみて感ぜざるを得ません。私た
ちは科学の悪用を防ぐ力と倫理とが社会に振りつつあ
ることに勇気づけられ、さらに科学者が悪の生産者と
ならず、科学により発見された真理を真に人類の幸福
と世界平和にのみ役立たせるために、あらゆる人々
と共に進みたいと思います。

（赤い印）

すべての

「九六三を五月九日 竹内節子」
末川博 佐々木清 三村剛郎
久野収 江口和郎 野上浩吉
田中清治郎 三宅泰雄 弘永隆一
坂西昭一 湯川秀樹